

## 日銀神戸 支店長の 視点

山崎真人氏



東西南北に広い兵庫県、自身のプライベートの移動手段は鉄道やバスが中心で、なかでも最近のお気に入りはローカル線の旅です。車窓から海や山の景色をみて季節を感じるのもよし、路線や駅名の由来から過去の歴史に思いをほせ、現在とのつながりを想像するのも楽しみです。

アルコールも大丈夫、沿線グルメの楽しみの幅が大きく広がります（ただし、飲み過ぎ寝過ぎには要注意）。路線によって本数は少ないものの、日頃、効率性に頭が向きがちなだけに、たまにはのんびりと、ぜいたくに時間を使うのもよいかと思います。

さて、長年、人流・物流の主役を担ってきた鉄道です

### ローカル線と観光

が、車社会への移行や地方の人口減少のもと利用者は減少しています。鉄道の維持管理コストもあつて、経済合理性の観点からは、需要減少に同じ供給を減らすか、コストに見合うよう価格を引き上げるのが定石です。しかし、公共交通機関である鉄道の場合、社会インフラとしての側面にも配慮が求められます。コストの一部を公が負担すべきかという論点も含めてバランスの取れた議論が必要ですが、なかでも需要拡大への取り組みは重要なポイントです。

限られた沿線住民に対し、鉄道ファンは全国にあまた存在します。沿線の観光地とタイアップした誘客の企画、駅舎を活用した物販やサービスなど、各地域の個性を生かした工夫によって国内外の需要を呼び込むことはできないでしょうか。地域活性化の観点からは、観光を切り口として交流人口増加に向けた取り組みが重要です。関係者の知恵を集め、前向きに議論が進むことを期待しています。